

2021年11月24日

各位

株式会社 紀陽銀行

## フジ住宅株式会社と国立大学法人和歌山大学との連携による「AIが創る最適な街並み」実現に向けた共同研究について

株式会社紀陽銀行（頭取：原口 裕之）はフジ住宅株式会社（代表取締役社長：宮脇 宣綱、以下「フジ住宅」）、国立大学法人和歌山大学（学長：伊東 千尋、以下「和歌山大学」）と連携し、「AIが創る最適な街並み」を実現するための共同研究を開始しますので、下記のとおりお知らせいたします。

現状、不動産会社において土地を購入する際、法律上・行政上・地形特性などのさまざまな情報を考慮し、宅地数、宅地面積を試算する「土地利用計画図」を作成のうえ、購入判断の一つとして土地の有効性を検証することが一般的です。当行とフジ住宅は、従来からフジ住宅における「次世代システム構築プロジェクト」を共同で進めておりますが、このたび、AIやデータ分析の知見を有する和歌山大学との共同研究を開始することで、最適な街並みの実現ならびにフジ住宅の業務効率化を図るべく、「AIを活用した土地利用計画図作成の自動化」をめざしてまいります。

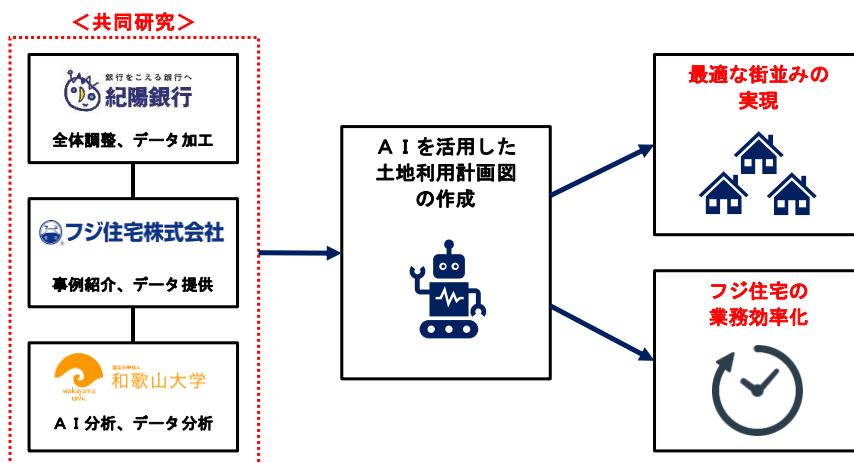
紀陽銀行は、今後もお取引先さまのさまざまな経営課題に向き合い、事業成長支援に取り組むことで、地域社会の持続的な成長に貢献してまいります。

### 記

#### 1. 概要

研究内容	AIなどの技術を活用した土地利用計画図自動作成機能の研究
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地購入判断に使用する「土地利用計画図」作成において、AIを活用した区画割をおこない、最適な街並みの実現をめざすため。</li> <li>過去の事例、周辺環境から、AIを活用した「土地利用計画図」を作成することで、フジ住宅の業務効率化をはかるため。</li> </ul>

#### 2. 共同研究スキーム



以上

本取り組みは、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール11「住み続けられるまちづくりを」、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながる取り組みです。

